

【高等学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

**達成度（評価）**  
**A**：十分達成できている  
**B**：おおむね達成できている  
**C**：やや不十分である  
**D**：不十分である

学校名	佐賀県立神埼高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営全般において、新型コロナウイルス感染症の影響により多くの制約がある中、保護者や地域とも連携しながら、生徒は落ち着いた学校生活を送ることができた。</li> <li>・学校評価アンケートにおいては、各項目において概ね生徒と保護者の評価は高い。生徒たちが、学習活動や生徒会活動、部活動をとおして、夢や目標の実現に向かって進む雰囲気作りができています。次年はコミュニティ・スクール導入の初年度であり、組織体制も固まり、地域とシームレスな新しい学校づくりが試される1年間となる。</li> <li>・いじめ防止や特別支援教育をはじめとした安心して過ごせる学校づくりに関しては、全職員で協力しての取り組みができており、次年度も引き続き行っていく。</li> </ul>
2 学校教育目標	「至誠、尚学、進取」を基調とし、社会に開かれた学び「KANKO学」をとおして、課題を発見し解決する能力を高めることで、持続可能な社会の担い手となる人材を育成する。
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①希望進路に対応できる確かな学力の育成</li> <li>②地域社会に進んで貢献できる技能の養成</li> <li>③学校の魅力づくりの推進</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○教科指導の充実	○生徒による授業評価において「理解できる」「概ね理解できる」の割合を80%以上にする。	・生徒の目標や実態に応じた授業計画の実施 ・授業研究や教職員相互の研修による指導から学びの支援へのシフト	A	・90%の生徒が、授業内容を理解できていると回答している。 ・授業評価アンケートの結果を基に、担当者はそれぞれ改善の取組を行った。生徒主体の学びへの転換をさらに進めていくため、今後職員研修の充実を図る。	A	・教科指導においては、それぞれに進度計画に沿った授業展開ができていたが、今後は定進度アップを目指し、教え合いや学び合いなど互いの理解性も一段と取り組んでいくことも視野に入れてみてはどうか。また授業展開の工夫も併し、主体性をもって「学ぶ」環境づくりの更なる推進を期待する。	各学年主任 各教科主任 教務主任 進路指導主事
	○家庭学習の充実	○各学年で設定した家庭学習時間等の目標値の80%以上 ○「ICT活用による効果的な学習課題の提供がなされている」と回答する生徒80%以上	・年4回の家庭学習時間調査実施 ・ICT活用による効果的な学習課題の提供	B	・家庭学習時間調査を2回実施した。生徒は調査前に集中して学習する傾向があり、家庭学習の習慣化に課題がある。 ・90%以上の生徒が、ICTを活用した効果的な学習課題の提供がなされていると回答している。感染症等対応のオンライン授業も適切に実施した。	B	・家庭学習においても、やらされ感の強い学習では定着度が薄く、自ら学ぶ姿勢へと転換させる必要がある。生徒と家庭が学ぶ事が社会的にも、様々な判断をする際にも重要であるとの自覚をいかに育成するか、その一手段としてICT機器の活用がなされた時に大きな飛躍の効果が出てくるのだと期待している。プレゼン力を上げるためのシート作成などは社会に出てからもかなり有効になると思う。	各学年主任 各教科主任 教務主任 進路指導主事
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○生徒会活動に「満足している」と回答する生徒80%以上 ○「問題行動を未然に防ぐ生徒指導が行われている」と回答する教員80%以上	・生徒主体の生徒会活動の推進 ・地域清掃等ボランティア活動の実施 ・問題行動の予防と再発防止の取り組み	A	・感染症対策を講じながら、学校行事を実施し、80%以上の生徒が社会貢献に意欲していると回答している。 ・80%以上の教員が、問題行動を未然に防ぐ生徒指導が行われていると回答している。また、90%以上の生徒が、身だしなみや学習態度を自分で整えていると回答し、意欲の高さが感じられる。	A	・「自ら考えてどう実現させるのか」という成功体験をさせることが、個々の自信と積極性に繋がっていく。そのうちから育まれる神高ブランドを大切にしたい。プライドが身に付けば自ずと問題行動もなくなるはず。コロナ禍で大変な時期もあるが、様々な角度から取り組んでほしい。 ・取組などの活動の継続を期待する。	各学年主任 生徒会主任 生徒指導主事 人権・同和教育担当者
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「安心して過ごせる学校づくりができて」と回答する生徒80%以上 ○「いじめ防止について組織的対応ができて」と回答する教員80%以上	・いじめの認知・覚知について迅速な対応の徹底 ・いじめ対応についての研修・会議の年間3回以上実施	A	・事案に対しては、報告、連絡、相談の徹底と情報共有化による積極的な対応に努めた。 ・90%以上の生徒と保護者が、安心して過ごせる学校づくりができていないと回答している。また、80%以上の教員が、いじめ防止に組織的に対応ができていないと回答している。	A	・いじめについては生徒や保護者からの意思表示がないとなかなか表面に出てこない問題であり、少しでも相談しやすい環境づくりを目指す必要がある。教師と生徒の強い信頼関係と事業発生時の早期な対応をこれからもお願しい。また、生徒同士のチェック機能も効果的と考える。	管理職 生徒指導主事 教育相談主任
●健康・体づくり	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちをもつ教育活動の推進	◎「将来の進路に向かって努力することができて」と回答する生徒80%以上 ◎「自己有用感、自己肯定感が高まった」と回答する生徒80%以上	・職業講話、先輩からの講演会の実施 ・総合的な探究の時間、ホームルーム活動の充実	A	・90%以上の生徒が、将来の進路に向かって努力することができていないと回答している。 ・80%以上の生徒が、自己有用感や自己肯定感が高まったと回答している。	A	・生徒の目標設定がどの段階で固まりつつあるのかということも重要だが、幅広い職種選択の中から進路を絞っていく指導も並行して大切な部分だと思ふ。何に興味関心があるのかを早期に発見させるためにも多くの体験の中から自ら特性を見抜く力も身に付けてほしい。 ・アンケートでの保護者と生徒のギャップが気になる。取組や成果をもっと発信して共有を図る。	各学年主任 教務主任 進路指導主事
	●安全に関する資質・能力の育成	●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする ○「交通安全を心がけている」と回答する生徒90%以上	・交通安全講話や啓発活動 ・登下校時等のマナー指導の充実	A	・接触事故が数件発生したが、おおむね安全確保ができており、90%以上の生徒が、交通安全をいっつも心がけていると回答している。 ・警察や保護者との連携により、交通安全に対する意識を更に高めていきたい。	A	・校舎が移転し随分と時間が経過したことで、生徒たちも新たな通学路や危険箇所などもわかってきているところではなか。新の経路状況など気になる点があり、地元に変えられる学校として根付くためにもマナーなどは大切な項目であり、地道に粘り強くマナー指導に取り組んでほしい。また神高ブランドを醸成することも重要と考える。	生徒指導主事 各学年主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○教育相談や特別支援教育の充実	○「教育相談体制が整っている」と回答する教員80%以上 ○「必要な生徒に適切な支援が行われている」と回答する教員80%以上	・教育相談に関する研修会の実施 ・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、情報共有	A	・90%以上の教員が、教育相談の体制が整っており、適正な支援が行われていると回答している。 ・障害や困り感を持つ生徒に対しては、関係機関との協力により、組織的な対応ができた。	A	・教育相談は、生徒自身にとって苦痛なことでも相談できる部署であることが望まれる。いじめのみならず、LGBTなど生徒たちの悩みも複雑化、多様化している時代になりつつある。先生方の研修もあつて、そのようなことを感じている生徒の発信をいち早くキャッチできる体制をお願いしたい。	教育相談担当 特別支援教育コーディネーター 各学年主任
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・学校閉庁日の設定 ・定時退勤日の設定 ・部活動休業日の設定 ・出退勤システム活用による時間外勤務管理	B	・職員の時間外勤務時間平均は34時間で昨年度より減少したが、繁忙期に一部の職員の負担が増える月があった。業務量の平準化をさらに進める必要がある。	B	・年度初や年度末、また大きな学校行事を控えた時期などは特に業務過多になる傾向があると思う。特に担任業務を控えていければいいところも思ふ。繁忙期以外の時期を利用した軽減なども考慮していいのではなか。また繁忙期をのサポートや実情に合わせた活動対応等の選択と集中が必要である。	管理職
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○働きやすい職場環境づくりの推進	○「職員間での連携が図られ、教育活動がスムーズに進められている」と回答する教員80%以上	・職員間でのコミュニケーションの充実、課題の共有、協働意識の醸成 ・来訪者に対する窓口対応、電話対応の満足度の向上	B	・80%以上の教員が、職員間で連携が図られており、課題活動がスムーズに進められていると回答している。 ・来訪者対応や電話対応のマナーは全職員で、更にブラッシュアップを図る。	B	・日頃生徒を相手に接することが多い先生方にとっては、時として上から目線で対応したりしがちな。先生方も生徒たちも同じ一人のいのちを持った人間として、お互いに思いを持った対応こそ大切だと考える。これは態度だけでなく、言葉の中にも活かされて行く大切な部分だと思ふ。 ・コミュニティスクール推進には地域との窓口対応や雰囲気づくりが重要である。	管理職 各分掌・学年主任

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者
○希望進路に対応できる確かな学力の育成	○学力の向上を支える各学年の状況に応じたキャリア教育の実践	○年度末に、「年度当初に比べて将来に対する目的意識が高まった」という生徒80%以上	・進路講演会、大学ジョイントセミナーの実施 ・オープンキャンパスへの参加 ・進路に関する情報の発信 ・生徒及び保護者との面談の実施	B	・90%以上の生徒が、進路情報が十分に提供されていると回答している。 ・90%以上の生徒が、年度当初に比べて将来に対する目的意識が高まったと回答している。 ・4年生大学への進学者数が年々増加しており、生徒の実態に応じたセミナー等の実施を工夫する。	B	・進路意識は高まりつつあるようだが、何のために進学をするのか、また、その過程の中で次のステップがいかに重要な意味を持つのかをしっかりと自ら見極め、考えての進路指導をすることが生徒たちの生きる力を身に付けさせることに繋がると思ふ。進学数も学校として大切な魅力には繋がりますが、生徒目線のサポートもぜひお願いしたい。 ・情報を生徒がどう活かしたか、説明会への参加状況の分析も必要である。	進路指導主事 各学年主任
★地域社会に進んで貢献できる技能の養成と学校の魅力づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>★教科と総合的な探究の時間を連動させた「KANKO学」の推進</li> <li>○学校内外での活動への主体的参加を支援することによる、社会で活躍したいと考える生徒の育成</li> <li>○学校情報の積極的な発信</li> </ul>	○年度末に、「年度当初に比べて地域の抱える課題や解決策についてよく考えるようになった」という生徒80%以上 ○「社会を見る視点が生徒自身に、もの見方が深まった」と回答する生徒70%以上 ○「総合的な探究の時間の活動によって、対話力や協調性が高まった」と回答する生徒70%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会との協働によるフィールドワーク、生徒企画の地域探究活動の実施</li> <li>・研究成果発表会の開催</li> <li>・グラウンドデザインの改訂</li> <li>・生徒が多様な役割を担い、活躍できる学校行事の運営</li> <li>・週一回のHPI更新</li> <li>・月一回の「学校だより」発行</li> </ul>	B	・80%以上の生徒が、年度当初に比べて地域の抱える課題や解決策についてよく考えるようになったと回答している。 ・90%以上の生徒が、探究学習を通して社会を見る視点が生徒自身に、もの見方が深まった。また、対話力や協調性が高まったと回答している。 ・地域活動に積極的に参加し、地域イベントの成功に貢献することができた。 ・学校運営協議会を4回実施した。協議を通じ、当校が抱える課題がより明確になった。 ・イン스타그램や12月の学校パンフレット発行等、広報活動を工夫し、当校の魅力発信に努めた。	A	・学校が地域貢献に取り組もうとする姿勢は、高く評価することができると思う。具体的な地域や企業との協働事業も見始めている。社会参加高層の高層は考慮して、今後の課題は、この取組に生徒たちの積極的な働きが加わること、またその取組を自らの言葉で堂々と発表できるようにしていくことではないだろうか。先生方も授業を通じ、確かな授業で理解度が左右されることは実感されていることと思うので、生徒たちにもいかに言葉が大切なこと、相手の表情を見て自分の意見が伝わっているのかを視察する意見も述べたい。確かな言葉で発信していただきたい。SNSやメールなど利便性の高いツールが身近なところにある時代だからこそ、人工知能でも対応できない心の部分を大切にしたい。そして、これからの時代を強く生き抜く力を身につけた神高が多く、巣立っていくようにサポートをお願いしたい。	管理職 OS企画担当 各分掌・学年主任

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの評価項目についても概ね目標を達成することができた。落ち着いた教育環境の中で、生徒は学校生活を送ることができた。</li> <li>・授業の理解度という点で、成果指標は達成したが、それが生徒の学力の伸長につながっているかどうか検証が必要である。従来の「教える」スタイルから「生徒が自ら学ぶ」スタイルへの転換を図りながら、生徒の希望進路に対応した学力が育成できるよう、校内の研修体制を更に充実させ、教職員の指導力の向上に努めなければならない。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響は依然としてあるものの、多くの行事等を、生徒の創意工夫と保護者や地域の協力・支援により実施することができ、大きな成果を得ることができた。また、いじめ防止や特別支援教育をはじめとした安心して過ごせる学校づくりに関しては、SCや外部機関との協力を得ながら、組織的な対応ができており、次年度も継続していかなければならない。</li> <li>・教職員の働き方改革の推進については、達成が十分とは言えない。人的資源に限られる中で、必要な部分に注力できるよう、保護者等の理解を得ながら、効率化を図る部分を更に見直ししていく必要がある。</li> <li>・コミュニティスクール推進校として、学校運営協議会での協議を踏まえ、「総合的な探究の時間」を活用した地域連携と学校の魅力づくりを進めた。</li> </ul>
----------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり